

令和6年度保育所における自己評価

園名 佐賀市立城東保育所

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。このことに基づき、佐賀市公立保育所では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた、改善や充実に取り組んでまいります。

園目標

保育理念 感性豊かで活力あふれる子どもの育成

ねがい 健やかな成長 ～こどものえがお おとなもえがお～

保育目標 豊かな心を育む
気付きを育む
生きる力・生き抜く力の基礎を育む

【評価結果の表示方法】 ※評価するにあたっては、以下のような基準で行っています。

A: 90%以上・・・十分達成されている。

B: 70～89%・・・達成されている。

C: 50～69%・・・取り組みがされているが、成果が十分ではない。

D: 49%以下・・・取り組みが不十分である。

評価項目	ABCD 評価	評価内容
保育方針・保育目標	B	保育方針・保育目標を理解し、かつ課題を共有していた。
子どもの発達援助	B	一人ひとりの子どもや集団の姿をとらえ、全職員で保育を行った。
保護者との連携	B	懇談や送迎時に保育内容や子どもの様子を伝え、保護者に寄り添った連携をした。
地域との連携	A	子育て支援機関や医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供した。
運営・管理	B	職員の役割分担と責任を明確にし、能率的かつ迅速な対応ができる体制であった。
職員の資質向上	B	実践的研修に取り組み、日常の保育に生かして子どもの育ちに反映した。
健康・安全	B	園内外の危険箇所の見直しや衛生的な保持に努めた。
食育	B	個別に配慮した食事を提供し、子どもが楽しく食べ、食べる意欲が育つ工夫をした。

総合評価

【保育方針について】

”こんなときどうする？”を合言葉に、保育の中での何気ない小さな気付きを、職員同士すぐに相談することを意識して取り組んできた。疑問を共有し、自分の考えを伝え合い、実践につなげるには、まだ改善の余地があると考え『B』とした。

【子どもの発達援助】

職員全体での共有に努めた。保育中のエピソードを、話す機会の確保を行った。園内公開保育では、実践を通して保育力向上に努めた。これからも意識して取り組んでいくべき課題として『B』とした。

【保護者との連携】

3歳児以上クラスでは今週の予定をあらかじめ知らせ、子どもの生活や遊びの様子を、写真を載せたドキュメンテーションで掲示している。日常の顔の見える関係性を大事にし、引き続きクラス懇談会・個人面談を取り入れていく。また、“伝えたいことが伝わってないかもしれない…”と発信力を課題とし、より伝わりやすいような工夫が必要と考え『B』とした。

【地域との連携】

地域の“ふれあい田代南サロン”の方へお楽しみ会のプログラム披露、城東中学校3年生の家庭科での園児との交流、同校区の錦華幼稚園・藤影こども園との3園交流など、コロナ禍で希薄になっていた地域交流を新たな形で行うことができた。地域の民生委員や評価委員の方々とも連携を取りながら、一緒に子どもたちを見守っていく体制を意識して整えてきたため『A』とした。

【運営・管理】

各役割のリーダーを筆頭に、声を掛け合い協力して取り組んだ。また、すき間時間を意識し事務業務を行い、保育への還元、定時退庁など意識して取り組んできた。もう一步“より良く”という気持ちを込めて『B』とした。

【職員の資質向上】

個別に研修を受け、保育に還元することで保育の向上、全体的な保育力にもつながってきている。今後も最新情報の収集や新たなアイデアの発想・導入に努め、広い視点からの学びは必要と考え『B』とした。

【健康・安全】

毎月の安全点検での危険個所の把握、定期的な担当課への報告を行っている。衛生面でのチェックリストの見直しを行い、感染症を知らせるボードの作成を新たに行った。建物の老朽化に伴い、修理修繕箇所は年々増えて続けている。改善へ向かうよう担当課への報告は続け、園でできることは保育士で改善を行っているため『B』とした。

【食育】

今年度より、3歳以上児のクッキング回数を増やせた。また、野菜栽培を通してより食に興味をもてたように感じる。献立表の裏面にいくつかレシピを載せたことで保護者より「家で作れて嬉しい」との言葉を頂いた。まだ工夫の余地があるとして『B』とした。

来年度に向けた取り組み

～こどものえがお おともえがお～のために

- ・子どもが豊かな表現・体験ができるような保育の充実を図る。
- ・“保護者とともに”生活を大切にしていく。(協力、呼び込む、ともに楽しむ)
- ・散歩や交流を通して、東佐賀町や柳町、佐賀市全体などの地域に触れるキッカケづくりをする。
- ・各役割のリーダーを筆頭に、声を掛け合う協力体制に努める。
- ・新たなアイデアの発想・導入、最新情報の収集を積極的に行う。
- ・気付きを大切にする。自分発信を意識し語り合い、互いを認め合う。